

1 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

1 学校の現状

- (1) 小中一貫教育校の特徴を生かし、9年間で3つの期に分けている。Ⅰ期の1年生から4年生は、東校舎で学校生活を送っている。4年生は最高学年としてリーダーシップを発揮している。Ⅱ期の5, 6年生は中学生と同じ西校舎に在籍し、生徒会活動や部活動に参加している。また、一部で教科担任制授業を行っている。中学校へのスムーズな移行ができており、中1ギャップはない。Ⅲ期の8, 9年生は地域のボランティア活動にすすんで参加し、地域の一員として活躍している。
- (2) 学習面では全体的に、基礎的・基本的な学習内容の定着に課題がある。家庭学習の定着も課題である。
- (3) 全教職員が兼務発令を受けており、合同で校内研究や交流授業を行っている。生活指導においても、児童・生徒の良さや課題を共有し、組織的に対応している。
- (4) 地域は、開かれた学校づくり協議会が中心となり、「花いっぱい運動」に熱心に取り組んでいる。また、通学時の安全指導や朝のあいさつ運動は、地域とPTAが協力して企画・運営している。地域の学校に対する支援は絶大である。

2 前年度の成果

- (1) 基礎学力の定着や学力の向上に向け、全校体制で組織的・計画的に実践してきた。授業改善を図ったことにより、児童・生徒の学習意欲が向上した。
- (2) 足立区ICT推進校として、タブレットやデジタル教科書を活用した先進的な授業が実施できた。

3 前年度の課題

- (1) 児童・生徒の健全育成について、保護者との協力体制が構築できず、改善できないことがある。
- (2) SNSによるトラブルが繰り返し起きている。また、家庭での使用時間が3時間を超えている生徒が多く、家庭学習に支障を来している。
- (3) むし歯の治療率は、昨年度よりも改善したが、小学生は4割、中学生は6割が未治療のままである。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要

重点的な取組事項－1 学力向上

- (1) 学習規律の徹底 (2) 個に応じた指導の充実 (3) OJTによる若手教員育成 (4) 教科専門指導員による教科指導 (5) 放課後補充教室 (6) 教えあい学習 (7) サマースクール

重点的な取組事項－2 小中一貫教育の確立

- (1) 異学年児童・生徒の交流事業 (2) 小中教員の合同授業 (3) 中学校教員による小学校での授業 (4) 全校合同開催の行事(運動会、学園祭、合唱コンクール) (5) 国際コミュニケーション科で全校児童・生徒対象の英語活動

重点的な取組事項－3 キャリア教育の推進

- (1) プログラミング的思考を育成 (2) 児童・生徒の主体的な行事の運営 (3) 対話的な学びと表現力の育成 (4) 自己有用感・自己肯定感の育成

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上

1 成果

- (1) 児童・生徒の授業評価における、肯定的な回答が最大18%向上した。
- (2) 小学校は、足立スタンダード形式で授業の展開ができた。中学校は、授業内に対話や発表の機会を意図的設け実践することができた。コミュニケーション力や発表力が確実に向上した。
- (3) 全校体制での補充教室や補習が概ね実施できた。
- (4) ICTを活用した授業が展開できた。児童・生徒の活用力が向上した。

2 課題

- (1) 会議や行事準備により補充教室を実施できないことがある。
- (2) タブレット端末を全教員が日常的に使用できない。
- (3) 家庭学習ノート以外の自主的な家庭学習が定着しない。SNS使用時間などを含め、家庭との

連携強化が必要である。

(4) 教師の授業力の向上に向けた、組織的な指導体制の強化。

重点的な取組事項－２ 小中一貫教育の確立

○小中一貫教育の取組を継承・発展させるための方策

- (1) 小学校と中学校の教員が共同で授業を行う。また、中学校の教員が小学校の授業を担当する。
- (2) 異学年が交流できる行事や学び合い学習を年間計画に基づいて実施する。
- (3) 各学年及びⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期の各発達段階に即した達成基準を設定し、その達成に向けた企画・立案を全校体制で実施する。

重点的な取組事項－３ キャリア教育の推進

○自ら考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成のための方策

- (1) 全教員が授業で、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、児童・生徒の学びを深める。
- (2) 児童・生徒が特別活動や行事などで、自ら進んで考え、創意工夫し、主体的に運営できるよう、指導・助言をする。
- (3) プログラミング的思考を育成することを目指した授業を全学年で実施する。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

小中一貫教育校として１３年目を迎え、義務教育９年間を見通した教育内容の充実と環境の整備に努めてまいりました。今年度は、保護者・地域による学校評価アンケートの内容及び質問項目を改定しました。アンケート結果によると概ね８０％以上の肯定的な評価をいただきましたが、読書活動については６８％でした。読書習慣に課題があることは、教員の評価とも共通します。保護者・地域の方からいただいた評価や要望を真摯に受け止め、課題解決に向けて取り組んでいきます。児童・生徒のアンケート結果によると、「学校が好き」（８４％）、「自分や友達を大切にしている」（９５％）で高い数値でした。一方「友達やクラスに役立っている」（６３％）は、自己有用感や自己肯定感の観点からも、今後の課題です。

学校が魅力的で楽しく、安心して生活できる場であるための第一の条件は、「分かる授業」「主体的に学べる授業」の構築だと考えます。教職員一致協力して、児童・生徒、保護者、地域に、満足していただける学園となるよう、全力で取り組んでまいります。今後とも本学園の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

２ 平成３０年度の重点的な取組事項

＜達成度 ◎：十分に達成 ○：おおむね達成 △：達成せず ●：課題が残る＞

重点的な取組事項－１ 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童・生徒の基礎的・基本的な学力の定着し、学力向上を図る。	区学力調査 通過率 小学校７０％ 中学校６５％ をめざす。	４月１２日区調査実施 小学校７６．５％ 中学校５６．５％	小学校は目標を達成したが、習熟度の低い児童が課題である。中学校は８年の数学が４３．３％と低く、個別指導を強化し改善させたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
-------------	------	--------	------	---------	-----

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
授業改善	・足立スタンダードを基準とした授業を展開し、児童・生徒が主体的に学習に取り組む授業の実施。	・児童・生徒が自己の課題を明確にし、主体的に取り組める授業を展開する。 ・発表の機会を意図的に設定する。 ・主幹・主任による若手教員の育成。 ・「プログラミング的思考の育成」を目的とした研究授業や教科部会を小中の教員の合同で年間10回以上実施する。	・小学校は、足立スタンダードの授業形態が定着している。 ・中学校は、対話や発表の機会を意図的に設けたことにより、発表力が向上した。 ・中堅教員の模範授業は、若手教員の育成に役立った。小中合同研修を10回以上実施できた。	・小学校は、効率よく学習をさせる工夫が課題である。 ・年間指導計画に沿った進め方ができていないところがある。	○
児童・生徒の学習意欲の向上	・年度末に実施する児童・生徒の学習・生活調査で80%以上の肯定的な評価。	・1～4年生を対象に、中学生が学習指導を行う補充教室を年間10回実施する。 ・週4回以上、放課後に補充教室を行う。個別指導の必要な児童・生徒には、教員が個別指導をする。	・中学生による小学生への学習指導は、年間で20回実施した。 ・中学生の補充教室は全生徒対象で行った。個別で数学指導を行った。 ・サマースクールは、算数・数学に特化して個別指導をした。 ・生活調査の肯定的な回答は88%。	・中学生の指導を受け、小学生は意欲的に学習した。 ・補充教室で小学校は、個別指導ができた。中学生は、十分にできなかった。	○

重点的な取組事項－2 小中一貫教育の確立

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
特色ある教育活動を確実に実践し、保護者・地域から信頼され、児童・生徒が誇りに思える学園を目指す。	取組について、実践結果をまとめ、学校関係者に説明する。肯定的な評価を8割以上にする。	保護者対象に行った学校評価アンケートの肯定的な評価は、84%であった。学校関係者の評価は、8割を超えた。	校舎分離型という条件の下、一貫教育校として、小中の教員が協力して学習活動を推進できた。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中一貫教育の取組を継承・発展させる。小中一貫教育の視点を明確にし、到達目標を共有し、実践する。	・学校評価で保護者8割以上、児童・生徒9割以上の肯定的な評価。 ・各学年及びⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期の各発達段階に即した達成基準を設定する。	・小学校と中学校の教員が共同で授業を行う。 ・中学校の教員が小学校の授業を担当する。 ・異学年が交流できる行事や学び合い学習を年間計画に基づいて実施する。 ・主幹・主任が中心となり企画・立案し、実施、反省、まとめまで責任をもって行う。	・中学校の教員による小学生対象の授業を国語、音楽、体育で実施した。国語：5.6年生各学級30時間、音楽：小学校1・2年各学級に35時間、体育：5.6年各学級に10時間 ・企画・立案からまとめまで、スムーズに行われた。	9年間を一貫した教育を実施できる強みを、小中の教職員が自覚し、系統的継続的な学習を積み上げていくことが大切である。	○

重点的な取組事項－３ キャリア教育の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童・生徒が、自ら考え、学習や生活に意欲をもって主体的に取り組めるようにする。	それぞれの取組の検証を行い、その結果を学校関係者に説明し、肯定的な評価を８割以上にする。	児童・生徒が主体的に企画・運営する活動が定着した。開かれた学校づくり協議員の評価は８割を超えた。	教員の意識改革は、常に行う必要がある。児童・生徒は、上級生が範を示して伝統を継承している。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自ら考え、主体的に行動できる児童・生徒の育成	・年度当初と年度末に行う、学習・生活調査で評価を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が授業で、主体的・対話的な学習の手法を取り入れ、児童・生徒の学びを深める。 ・児童・生徒が特別活動や行事などで、自ら進んで考え、創意工夫し、主体的に運営できるよう、指導・助言をする。 ・プログラミング的思考を育成することを目指した授業を全学年で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話と発表の機会を意図的に多く設定し実践したことにより、発表力が向上した。 ・行事などで、児童・生徒が主体的に企画・運営する形式が定着した。 ・プログラミング的思考の育成を目指した授業を継続的行ったことにより、児童・生徒に主体的に学習する姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職が教員に対して、常に目的意識をもてるよう、方針を示し続けることが大切である。 ・児童・生徒による運営の形式は定着しつつある。 	○

３ 学校活動全般について

- 小中一貫教育校として、９年間を通したカリキュラムを実践し、将来、社会の一員としての役割を果たすために必要な能力・態度を身に付けた児童・生徒を育成する学校づくりを目指して、重点目標を、①学力の向上 ②小中一貫教育の確立 ③キャリア教育の３点とし、目標達成に向けて全校体制で取り組んできました。
- 学力の向上は、本校の重要な課題であることから、全教職員で協力し、全校体制で取り組みました。児童・生徒が自ら考え、判断し、発表できる、対話的で主体的な学習が可能となる授業を目指し、工夫・改善をしてきました。放課後や夏休みの補充教室では、算数・数学のつまずきを解消することを重点とし、個別指導を行いました。また、課題である家庭学習の定着を図るために、家庭学習ノートを活用し取り組みました。学校で学習したことを確かな力にするためには、振り返り学習が大切です。今後も継続していきます。
- ＩＣＴが急速に発展し、グローバル化した社会の中で、豊かな心を持ち、たくましく生き抜いていくためには、プログラミング的思考力（自分がイメージした結果に向かって、一つずつ行動を明確にしていく論理的な思考力）を身に付けることが大切です。今年度は、「プログラミング的思考力の向上」を本校の研究テーマとして、授業や行事を通して実践してきました。今年度の成果と課題を明確にして、来年度も継続して取り組んでいきます。
- 国際コミュニケーション科では、英語学習や国際理解学習を年間計画に基づき行っています。３１年度から小学校に英語の授業や外国語活動が加わりますが、それとは別に年間１０時間～１５時間行います。英語を通して円滑なコミュニケーションを図れる児童・生徒を育成します。
- 地域やＰＴＡの活動に、延べ１２０名以上の中学生ボランティアが参加しました。ボランティア活動を通して、地域に貢献する喜びや、協力することの大切さを学びました。